

参加型合意形成プラットフォーム「Decidim」について

1 参加型合意形成プラットフォームとは

オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結びつけていくための機能を有している参加型民主主義プロジェクトのためのオンラインツール。

バルセロナやヘルシンキなどで使われている、「Decidim (デシディム)」というツールを一般社団法人コード・フォー・ジャパンが中心となり、日本語化を行ったもので、世界中の 30 を超える自治体で利用されており、日本国内では本市が初めての導入となる。

市が公表した計画案について、市民が意見やアイデアを述べられる点はパブリックコメントと似ているが、パブリックコメントとは異なり、意見に対し、フィードバックを行え、徐々に議論を活性化させていくことができるものとなっている。

2 本市における運用について

10 月下旬に運用を開始し、寄せられた意見やアイデアについて集約を行う。

また、意見やアイデアが建設的なものとなるよう一般社団法人コード・フォー・ジャパンがファシリテーションを行う。

【スケジュール】（下線部：参加型合意形成プラットフォームを使用）

- | | |
|-----------------|--|
| ・ 10 月下旬 | 参加型合意形成プラットフォーム運用開始 |
| ・ 10 月下旬～11 月中旬 | <u>アイデア収集フェーズ</u>
(スマートシティ構想の各目標における概要に対して、意見・アイデアを収集する期間) |
| ・ 11 月下旬～12 月中旬 | <u>意見収集フェーズ</u>
(アイデア収集フェーズにおいて出てきた意見を参考に作成したスマートシティ構想案について意見を収集する期間) |
| ・ 1 月上旬～2 月上旬 | パブリックコメント実施 |
| ・ 3 月 | スマートシティ構想公表 |

※上記期間中に、オフラインでのワークショップを実施予定

3 画面イメージ

【市民】②誰にでもやさしい窓口環境の実現

■ 現状・課題

- コミュニや手話通訳者等を配置している
- 市役所の待ち時間を子どもが退屈しないように、子どものプレイスペースを整備している
- 行きたい窓口がどこにあるか分かりにくく、グローバル化が進んでいない
- 待ち合いスペースが少なく滞留すると混雑する
- 施設予約は、申請に来館する必要がある

■ 短期（～3年）

- 多言語翻訳機等導入
- 窓口の順番呼び
- 窓口支援及び説明用タブレットの導入
- 支払いまで完了できる施設予約システム

■ あるべき姿

- 分かりやすい案内や表示で、行きたい窓口にスムーズに向かうことができる
- 各窓口にコミュニケーション支援ツール等を導入し、外国人の方や障がいのある方などが、安心して手続きができる環境を整備する
- オンラインで申請から支払いまでできる

2件のコメント 並び順: 古い順 ▼

匿名希望の会話

匿名希望

賛成

普段仕事をしているとなかなか市役所に行く時間を取るのが大変なので、オンラインで24時間対応してもらえると助かります。

返信を非表示 返信 ▲1 ▼0

匿名希望

私も市役所の近く...ロードして郵送してください

返信 ▲0 ▼0

返信